

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大学は地場の中小企業と組んで街を育てる 山極 壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）

1. 今はベースサイエンスやビックデータなど情報処理能力ばかりが注目されているが、技術者ばかり育てても社会はよくなる。データをどう扱うかをきちんと考える識者が必要だ。
2. 大学は地場の中小企業と組んで街を育てていくという発想が必要だ。中小企業にこそ、研究の種や技術が眠っている。中小企業と大学を結び付ける仕組みを考えなくてはならない。参考になるのは日本と同じ中小企業が多いドイツのモデルだ。ドイツでは、72あるブラウンホーファー研究所に資金提供しているのはほとんど中小企業で、政府も助成金を出している。研究所はすべて大学の近くにある。大学も研究者や学生を研究所に送り込んで人材交流を図っている。
3. 文部科学省中央教育審議会の答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の中で、評価に値するのが「地域連携プラットフォームの構築」だ。
4. 将来、大学はコミュニティーの中心になるべきだ。47都道府県に少なくとも国立大が1校以上あるのは日本の強みになる。知識の集積を行ってきた大学を国民がもっと利用する仕組みをつくれればいい。

(参考：「週刊東洋経済」2019年11月30日号)

経営者のための危機管理

一人親方の零細企業の加工賃を引き上げる

1. トップ工業（新潟県・三条市・売上高32億円、社員約170人）の石井真人社長は、一人親方の1~2人規模の零細企業に対し加工賃の引き上げを申し出た。ここままで、時間をかけて築いてきたサプライチェーンが崩れ、自社の経営に重大な支障が出かねない、と判断したためだ。上げ幅は数%のものもあれば、加工賃が1点数円と安価な場合は2倍にしたところもある。
2. 1人親方のような小さな作業場では何十年も同じ価格で発注しているケースがあったのだ。「大廃業時代」が本格化すれば、中小製造業の中から、「経営は順調でも、協力零細企業の廃業によって危機にひんする」という事例が出てくる可能性も高まる。その意味でトップ工業のように、自社の利益を減らしてまで零細取引先の実入りを増やし、サプライチェーン全体で一緒に生き残ろうとする動きは、今後、活発化するかもしれない。

(参考：「日経ビジネス」：2019年11月25日号)

ワンポイント経営アドバイス

事業成功のもとには知恵・才覚・勤勉・正直

森田 雅也（関西学院大学文学部教授）

1. 江戸時代の経済事情を活写した西鶴の短編集「日本永代蔵」（1688）には、医術では到底治せない「貧病」という病を治す薬「長者丸」が登場する。毎日、「早起＝勤勉」、「家職＝本業」、「夜話＝精進」、「始末＝儉約」、「達者＝健康」を適量調合して服せば貧病に効くのだそうだ。さて、「長者丸」の効き目のためか、江戸時代には現代人の手本となる成功者が多く生きていた。
2. 昔も有名なのが「紀伊国屋文左衛門」である。師走の暴風雨について和歌山から江戸へミカン船を出し、正月の縁起物であるミカンを言い値で売って巨利を得る。さらにその儲けを元手に木材商を開く。消費者ニーズの変化に呼応し、掛売りが主流だった従来の呉服屋とは異なる「現金大安売り」に方針転換して、事業拡大に成功した三井八郎右衛門の越後屋（現在の三越）。こうした知恵と才覚、そして勤勉さと正直さが成功をもたらした。

(参考：「戦略経営者」2020年1月号)

古典に学ぶ

君父に忠考し、社会を救済する

(解説) 人はこの世に生まれた以上、必ず何らかの目的がなくはかなわぬことだが、その目的とは果たして何事であるか、いかにして遂げ得べきか。これは人の面の異なるごとく、各自意見を異にしているであろうが、恐らくは次のごとく考える人もあるであろう。それは自己の長じたる手腕にせよ、技両にせよ、それを十分に発揮して力の限りを尽し、もって君父に忠孝を致し、あるいは社会を救済しようと心掛ける。

(参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会)